

# 小学校1・2学年 道徳 学習指導案

平成19～20年度

十勝管内教育委員会連絡協議会教育実践指定校（地域）研究実践報告書から

## 1 主題名

信頼友情 2－(3)

「二わのことり」(東京書籍 みんななかよく どうとく①)

## 2 主題について

よい友達関係を築くには、互いを認め合い、様々な場面で助け合い理解し合って、信頼感や友情を育てることが大切である。具体的には、温かい心で接することや、相手の立場に立った励ましなどの、親切な行為となる。身近な友達と仲よく助け合い、困っている友達や悲しんでいる友達はもちろん、誰に対しても温かい心で接し、相手が喜ぶ様子を見てともに喜び合い、友達のがんばりをともに喜び合うような気持ちを育てていくことが大切となる。

場面ごとに、友達を思うみそさざいのやさしい気持ちを考えることによって、ねらいとする価値を深められるようにしたい。また、役割演技を取り入れ、やまがらが喜ぶ様子を見て、友達の喜びを自分の喜びに感じるみそさざいの気持ちを考えさせたい。

「報徳のおしえ」とのかかわりでは、「分度一学校」に示されている「友のよさ かかわりを大切に」という部分にねらいをしぼって、進めていく。友達の存在そのもののすばらしさに気づかせ、そして、お互いの個性を生かし合って、かかわりを深めていくことにつなげていきたい。

## 3 児童の実態

- お互いに教え合い、助け合う姿がよく見られる。
- 他の子に優しくすることが大好きだが、ちょっと意地悪をしてしまうこともある。
- 自己中心的な考え方から、口論となることがある。
- 思ったことや自分の経験を素直に発表できる子が多い。
- 発表に積極的な反面、友だちの発表に耳を傾け、しっかりと聞く力が弱い。

## 4 主題のねらい


- 友達と仲よく助け合っていこうとする心情を育てる。

## 5 本時

### (1) 目標

みそさざいの姿を通して、友達と仲よく助け合っていこうとする心情を育てる。

## (2) 展開

学習の流れ	指導・支援	評価(方法)
<p>【価値の方向付け】</p> <p>①自分の誕生日のことを想起する。</p> <p>みなさんの誕生日は、どんな誕生日でしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼントをもらってうれしかった。</li> <li>・友達に「おめでとう」と言われてうれしかった。</li> </ul>	<p>誕生日の様子を思い出し、ねらいとする価値への関心を高めるよう支援する。</p>	
<p>【価値の把握・追求】</p> <p>②資料『二わのことり』を読み、価値について話し合う。</p> <p>みそさざいは、どうしてどちらに行こうか迷ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うぐいすの家で、音楽の練習がある。</li> <li>・やまがらの家は、遠くてさびしい。</li> <li>・他の鳥たちがみんな行くから、わたしも行きたい。</li> <li>・やまがらの誕生日のことも気になる…。</li> </ul>	<p>資料の範読とともに場面絵を提示しながら視覚的にも捉えるように支援する。</p>	
<p>みそさざいは、うぐいすの家でどんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな来てしまったけれど、やまがらはどうしているかな。</li> <li>・せっかくの誕生日に一人ぼっちでかわいそうだな。</li> <li>・誕生日に誘ってもらったのに、行かないで悪いことしちゃったな。</li> </ul>	<p>子どもの発表を受けて、子どもの心の動きに合わせて追発問しながら、みそさざいの気持ちを共感的に捉えられるように支援する。</p>	
<p>うれしそうにしているやまがらを見て、みそさざいは、どんな気持ちになったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おそくなってごめんね。</li> <li>・こんなに喜んでくれて、ぼくもうれしい。</li> <li>・これからもなかよくしようね。</li> </ul>	<p>やまがらの家に向かうまでの気持ちの変化をじっくりと考えられるように支援する。</p>	
<p>【価値の内面的自覚】</p> <p>③友達と仲よくできて楽しかったことを振り返って、交流する。</p> <p>友達に声をかけて、楽しくできたことを思い出してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達を誘い合って、みんなで仲良く遊べた。</li> <li>・一人で遊んでいたのに、声をかけて遊んだ。</li> </ul>	<p>役割演技を通して喜ぶやまがらを見たときの、みそさざいの気持ち感じ取れよう。</p>	
<p>【実践への意欲化】</p> <p>④詩「あしたもともだち」の朗読を聞く。</p> <p>○友達にかかわる詩をしっかりと聞くことで、「友達と仲よくしていこう」という実践意欲を高める。</p>	<p>報徳のおしえのリーフレットから「分度一学校」の項目を示し、友達とのかかわりに着目できるよう支援する。</p>	
<p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">友のよさ かかわりを大切に</p>	<p>(友達っていいな)という気持ちを温めながら、それぞれの生活につなげる。</p>	<p>◎みそさざいの気持ちについて、自分の体験を振り返りながら共感的にとらえようとしているか。(観察・発表・シート)</p>  <p>◎交流の声、詩の朗読を聞いて、実践への意欲を高めようとしているか。(観察・自己評価)</p>

「JUSTICE UNITE」を始めたのはなにかがきっかけ。

「JUSTICE UNITE」
「JUSTICE」

「JUSTICE UNITE」は「JUSTICE」の「JUSTICE」を「JUSTICE」にする。そして「JUSTICE UNITE」にする。

「JUSTICE UNITE」の「JUSTICE」は「JUSTICE」の「JUSTICE」。

「JUSTICE UNITE」の「JUSTICE」は「JUSTICE」の「JUSTICE」。

「JUSTICE UNITE」の「JUSTICE」は「JUSTICE」の「JUSTICE」。

「JUSTICE UNITE」の「JUSTICE」は「JUSTICE」の「JUSTICE」。

「JUSTICE UNITE」の「JUSTICE」は「JUSTICE」の「JUSTICE」。

「JUSTICE UNITE」の「JUSTICE」は「JUSTICE」の「JUSTICE」。

「JUSTICE UNITE」の「JUSTICE」は「JUSTICE」の「JUSTICE」。

### 二わのごとり ワークシート

名まえ( )

◆ みそさざいは、やまがらに どんな ことを はなしかけた でしょう。 みそさざいになった つもりで、かんがえて みましょう。



よくきてくれましたね。  
きみは、もうだれもきてくれないのかとおもっています。

-----

-----

-----

-----

-----

-----

-----

- ◆ じゅぎょうを ぶりかえりましょう。
- ・ みそさざいと じぶんの きもちを くらべながら かんがえられましたか。 ( A B C )
- ・ かんがえたことや おもったことを はっぴょうしたいと おもいましたか。 ( A B C )
- ・ ともだちの ために、これから してあげたい ことを かんがえられましたか。 ( A B C )



「おまかせです」

「はい、おまかせです。きょうは、もうだれも

きいてくれないのかしら、おまかせです。」

おまかせです、はい、おまかせです。

おまかせです、はい、おまかせです、よかった。

とおまかせです。

あしたもともだち

ともだち ともだち

ときどき ケンカして

ブンブン かおじゆう

おこったりもするけれど

ひとりはまだかさみしいね

だから

ともだち ともだち

えがおで なかなかおき

あしたも あそぼう

あおいそら！

ともだち ともだち

だれかが ねつをだすと

シユルシユル げんきが

しほんでゆくかんじがする

ひとりはとつてもさみしいね

だから

ともだち ともだち

えがおで はげまそうよ

あしたも あそぼう

あおいそら！

ともだち ともだち

うれしい たんじようびは

ホワホワ ケーキに

ほっぺがほらゆるんでくる

ひとりだけだべるのさみしいね

だから

ともだち ともだち

せんいん よんでこよう

あしたも あそぼう

あおいそら！

# 小学校4学年 社会科 学習指導案

平成19～20年度

十勝管内教育委員会連絡協議会教育実践指定校（地域）研究実践報告書から

## 1、単元名 「十勝の夜明け」

## 2、単元について

### (1) 単元について

本単元では、開拓の基礎を作った人々の生活を知り、人々の生活を向上させるために開拓して畑を作ったことや、人々の苦勞や願ひ、地域をよりよくしていこうとした思いを理解する単元である。そうした郷土の発展につくした先人の功績や苦勞を考えさせるため、資料館を見学したり、写真の資料や実物の道具などを活用し、より先人の思いを想像できるように工夫していきたい。

本時は、二宮地区の開拓の様子について調べていく。子ども達は、重機やトラックなどを使用して土を起こしたり、木材を運ぶ場面は目にしたことがあると思うが、全てが手作業であった当時の開拓の仕事や、生活の様子を想像することは、大変難しいことである。

授業では、当時の様子を思い起こす手がかりとして、写真を提示し、現在との違いを考えながら、開拓者の苦勞を感じ取れるようにしていきたい。また、鍬や鋸などの実物に触れることで、全ての仕事の手作業であったことの大変さを伝え、意欲的に当時の人々の思いを想像し、考えを伝えていく学習にしていきたい。また、開拓者達の心構えや、開拓者達を導いた二宮尊親の教えが、今も息づいていることを感じとらせたい。

### (2) 児童の実態

どの学習にも興味を持って、意欲的に学習に取り組んでいる。たくさんの考えを持ち、積極的に伝える児童が多いが、考えを持っていても伝えることを苦手とする児童もいるので、みんなが発表し、お互いの考えを交流しあう雰囲気を作っていくことが今後の課題である。

社会科の学習では、資料から情報を読み取ったり、見学でインタビューをして情報を集めたりと、意欲的に調べ学習に取り組んできた。また、情報をまとめ、わかりやすく伝えるための新聞作りにも取り組み、情報を集める力や、まとめる力がついてきている。

本時の「開拓の様子と開拓者の苦勞」は子どもたちにとって、イメージを膨らませることが難しい内容のため、当時の写真や道具を用意し、開拓の写真から、当時と現在の違いを考え、昔の人の苦勞を想像し、感じ取っていけるようにしたい。また、実際に昔の道具に触れたり、開拓の様子を知っている方のお話を聞くことで、感想や考えをもって積極的に伝え、興味を持って学習に取り組めるようにしていきたい。

### (3) 単元で身につけさせたい力

この単元では、資料を読み取りながら開拓の様子を知り、開拓者たちの苦勞を想像し意欲的に考えを持つ力をつけていきたい。また、考えを進んで伝えあう力をつけていきたい。

### 3、単元の目標

- (関) 郷土の発展につくした先人に関心を持ち、その働きや苦勞を意欲的に考えることができる。
- (思) 先人の生活の様子を知り、人々の生活を向上させたり、地域をよりよくしていこうとした開拓者たちの思いを考えることができる。
- (技) 資料を活用して調べ、わかったことを記録したり、考えをまとめて発表することができる。
- (知) 地域の発展のためにつくした先人の働きによって、地域の人々のくらしが向上してきたことを理解することができる。

### 4、活動計画（全18時間）

時間	学習内容	関	思	技	知
1	オリエンテーション～大まかな学習の見通しを持つ。	○			
1、アイヌの人たちの様子					
2	アイヌの人たちの衣服や生活について、資料で調べたり、知っている人に聞いたりしてまとめる。	○		○	
3	アイヌの人たちの料理や生活、信仰などについて資料で調べたり、知っている人に聞いたりしてまとめる。	○		○	
4	アイヌの人たちが使っていた楽器や歌、踊りなどについて、調べたりまとめたりする。	○		○	
5	アイヌの人たちの生活が時代とともに変わってきたことを知るとともに、今行っている活動や生活についてとらえる。	○		○	○
6・7	アイヌの人たちの文化や生活について、もっと調べてみたいことを調べ、まとめる。	○	○	○	
2、豊頃、十勝を開拓した人々					
8	豊頃町、十勝を開拓した人たちがいつごろ来て、どんな生活をしていたか調べてまとめる。	○		○	
9 (本時)	二宮地区を開拓した二宮尊親の開拓の様子を調べ、その苦勞を知る。	○	○		
10	芋こじに関心を持ち、資料を活用して調べ、報徳訓を身近な生活に置きかえて考える。	○	○	○	
11.12	豊頃町の漁業の発展に尽力した堺千代吉の苦勞や生活について調べてまとめる。	○		○	
3、十勝の開拓のはじまり					
13 ～18	十勝の開拓の始まりの様子や、苦勞や願ひについて、調べてまとめる。	○	○	○	○



5、本時について

(1) 本時の目標

- ・資料をもとに、開拓者達の苦労や大変さを考えることができる。(思)
- ・尊親達の開拓に興味を持ち、資料をもとに進んで開拓の様子について考えることができる。(関)

(2) 本時の展開

	児童の活動	教師の支援	評価
つ か む 5 分	<p>○前時の学習の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二宮尊親が開拓のリーダー。</li> <li>・福島から、開拓者75人を連れてやってきた。</li> </ul> <p>○本時の課題を把握する。</p>	<p>○福島からやってきて、豊頃の開拓を進めたリーダーは誰でしたか。</p> <p>○生活していくために、どんなものをつくっていききましたか。</p> <p>→北海道に永住する人たちを連れてきて、土地を切り拓き、畑や道、家や排水路、橋などを作っていた。</p> <p>○土地を切りひらき、畑を作るのが主な開拓の仕事。どんな苦労があったのだろうか。</p>	
考 え る 2 0 分	<p>○写真資料からわかることを読み取り発表する。</p> <p>○開拓者が苦労したこと、大変なことを考えて、ワークシートに記入する。</p> <p>○考えを発表し交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二人組みで土を運んでいる。土は重たくて大変そう。</li> <li>・おので、土をほっている。手作業でほるのは大変そう。</li> <li>・のこぎりで木を切っているので、時間がかかって大変そう。</li> <li>・今だと、チェーンソーを使ってすぐ切れるけど、手作業で木を切っていて大変そうだ。</li> </ul> <p>☆道具を持ってみて・・・</p> <p>重たい。切るのが大変。力がある。時間がかかりそう。</p>	<p>☆写真資料①・②を提示</p> <p>○写真を見てわかること、気がついたことを発表しよう。</p> <p>○机間指導し、書き進められない児童へアドバイスする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開拓者達は、どんな作業をしていますか？</li> <li>・この作業は、今だと、どんな服装や、道具ですとしますか。</li> </ul> <p>○道具を実際に触ったり、使ったりしてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大のこや、くわ（農業用の道具）を提示</li> </ul>	<p>○資料をもとに、開拓の様子について進んで考えようとしているか。</p> <p>○資料をもとに、開拓者の苦労について考えているか。</p>

深 め る 1 5 分	<p>○ゲストティチャーの話聞く。(ビデオ)</p> <p>○話を聞いてわかったことや、感想をワークシートに記入。</p> <p>○発表し、交流する。</p>	<p>○ゲストティチャーに、開拓者達の苦労をうかがってきました。</p> <p>○話を聞いてわかったことや、感想を書いてみよう。</p> <p>○発表しよう。</p>	
ま と め る 5 分	<p>○開拓者達が、大変な開拓を進めるためにしていた工夫や心がけについて考える。</p>	<p>○どんな工夫をして、このような大変な開拓をみんなで進めていったのだろう。</p>	<p>開拓は全て手作業で大変そう。自分だったら、たいへんでできないかもしれない。道具はとても重たくて、体力が必要な仕事だった。木を切ったり、土を運ぶところから全部自分達で行っているのはすごい。</p> <p>～開拓は全て手作業で、とてもつらく大変な仕事だった。</p>
		<p>○尊親の教えについては、次の時間にくわしく学習します。(報徳の教えのパネル提示)</p>	

(3) 本時の評価

- ・資料をもとに、開拓者達の苦労や大変さを考えることができたか。(思)
- ・尊親達の開拓に興味を持ち、資料をもとに進んで開拓の様子について考えることができたか。(関)

6、板書計画

豊頃・十勝を開拓した人々

開拓で大変だったこと

・子どもから出た意見を板書

開拓には、どんなくろうや大変なことがあったのかを考えよう。

北海道に永住する人たちを連れてきて、土地を切り拓き畑や道、家や排水路、橋などを作っていた。

→開拓は全て手作業で、とてもつらく大変な仕事だった。

写真① ※子どもから出た、気づきやわかったことを板書

写真② ※子どもから出た、気づきやわかったことを板書

開拓者達は、二宮尊親の教えを守りながら、協力して開拓を進めていった。

# 小学校5学年 道徳 学習指導案

平成 19～20 年度

十勝管内教育委員会連絡協議会教育実践指定校（地域）研究実践報告書から

## 1、教材名 『わたしにできること～ことばの大切さ～』

### 2、教材について

#### (1) 教材について

生きていく上で基礎基本となる力——人とのコミュニケーション。人間は、言葉によって、安心ややすらぎを与えられ、新しい人生を切り開く勇気を得ることができる。しかし一方で、言葉は、人を傷つけたり、怒らせたり、トラブルの原因になったりすることがある。本教材は、言葉が持つ意味と心について、報徳の教えと関連付けて考えさせていくことを目標に授業を進めていきたい。

#### (2) 児童の実態

5年生の子どもたちは、明るく活発な子どもが多い。しかし考えるよりも先に行動してしまったり、相手の気持ちを考えずに言葉を投げかけたりすることによるトラブルが起こることも多く、教育活動全体を通して、話し合いに重点を置き、相手の気持ちをくみ取ったり、自分の考えを言葉で正しく伝えられるよう学習を進めているところである。

普段の授業では、たくさんの考えを持ち、活発に自分の考えを伝えることのできる児童が多い。しかし考えを持っていても伝えることを苦手とする児童もいるため、できるだけ多くの子が発表できるような、雰囲気作りに努めるとともに、できるだけ多くの子どもの考えを取り入れた授業になるよう努めたい。

### 3、本時の学習

#### (1) 目標

・思いやりのある言葉を使っていこうとする気持ちを育てる。

#### (2) 関連する道徳の内容

・2-(2) … 誰に対しても思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って親切にする。

#### (3) 報徳の教えとのかかわり

報徳の精神に至誠・勤労・分度・推譲という四綱領がある。授業の題材である「ことばの大切さ」は推譲(認め合い思いやる心を持つこと)、至誠(誠実に真心をもって接すること)と、いくつかの面でかかわっていると考えられる。

今回は、普段何気なく使っている言葉が相手にどのような印象を与えるかということを考えながら、言葉の裏側にひそんでいる優しさにも目を向けつつ、「推譲」に狙いをしばって授業を進めていきたい。

### (3) 本時の展開

展開	子どもの活動	教師の支援	評価
つかむ	◎以前勉強した、言葉についてのマンガを見ながら、本時の課題を確認する。  言葉の大切さについて考えよう	◎資料1を掲示する。	
考える	◎資料2を読み、内容をつかむ。  ◎他の弟子から詰め寄られた盤珪禅師がどう答えるかを予想し、自分の考えを資料に書き込む。  ・まあまあ、そんなに怒るでない。 ・すぐに追い出すから、もう少し待っておれ。 ・出て行きたければ出て行け ・では、でていけ ・破門してしまっちは、彼はもう行くところがないのだよ。  ◎盤珪禅師がどう答えたのかを知り、禅師はどんな気持ちでその言葉を言ったのかを話し合う。	◎資料2を配り、黒板にも挿絵を掲示する。  ◎出てきた考えを黒板に整理する。  ◎資料2Aを読む。  ◎資料2Bを読む。	◎盤珪禅師の言葉の裏側にある優しさを共感的にとらえようとしているか。
深める	◎普段の生活を思い出しながら、たった一つの言葉で ①励ましたこと ②励まされたことは ないかを考え、発表する。	◎誰かの言葉で励まされたこと、逆に励ましたことはないかなど、経験はないか呼びかける	◎普段の生活を思い出しながら、発表しようとしている。
まとめる	◎昨年学習した4綱領をふり返る。	◎4綱領を掲示しながら、言葉の大切さについて確認する。	



言葉によって、思いや考えを相手に伝え、大きな感動や感激を生むと同時にそれが人々の心を大きく変えるきっかけになることもあります。

ほんけいようたくせんじ

江戸時代、盤珪永琢禅師（一六二二年～一六九三年）が弟子たちと一緒に修行していたとき、ある悪童が寺に入ってきました。悪行ばかりで親からも見はなされ、寺に来てからも悪行をやめることはできず、寺の物をぬすんでは、町で売りさばくようなありさまでした。

あくどう

悪い噂はたちまち広がり、盤珪禅師の名や自分たちの信用にも傷がつくと考えた弟子たちは、悪童を破門するようになり、盤珪禅師に願ひ出しました。盤珪禅師は話を聞いてくれましたが、悪童を破門する気配はなく、凶に乗った彼はますます悪事を働いていきました。やむなく弟子たちは、彼を早く破門するようになり、盤珪禅師にお願ひしましたが、盤珪禅師は「一日待つてほしい」と言っただけでした。

はもん

ところが、次の日も悪童はそのままです。ついに怒った弟子たちは「彼を破門しないならば、私たちが寺を出ていきます。」と盤珪禅師に詰め寄りました。

盤珪禅師はきっぱりと答えました。





# 中学校 1 学年 道徳 学習指導案

平成 19～20 年度

十勝管内教育委員会連絡協議会教育実践指定校（地域）研究実践報告書から

## 1. 題 材 名 「報徳のおしえ」

～尊親のおいたちと生涯

## 2. 題 材 感

現在、日本の文化が発展し便利になっている半面、財政危機・失業問題・犯罪事件の多発等、人々の心が大きく乱れ、日本という国が揺れ動いています。

私たちの住んでいる豊頃町は、先人の開拓によって百有余年の歳月が流れ、今の生活があります。開拓当初のその苦労は創造を絶するもので、住むところも食べることも充分ではなく、その計り知れない苦労があったからこそ、今があることを忘れてはなりません。

世の中が乱れ始めている今だからこそ、大人も子どもも「報徳のおしえ」を学習し、自分の考え方や行動を見つめ直すことが重要だと考えます。

今回は、そんな二宮尊親のおいたち・時代背景と初期の入植者がそれほど遠くない存在であることを学習し、「報徳のおしえ」をより身近なものとして感じさせたいと思います。

## 3. 生徒の実態

授業に対して積極的に参加する生徒とそうでない生徒の差が大きく、発言・反応が一部にかたよることがある。また、集中力が持続できない生徒が多く、動きの少ない授業では教科に関係なく授業に集中できなかったり、気持ちに斑がでたりすることが多い。

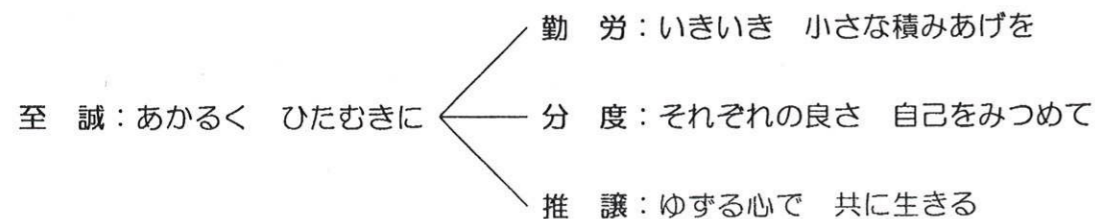
また、小学校のときから同じ学級で学習した生徒がほとんどで、お互い気心が知れているので授業中にひやかしゃからかいなどのことばが出やすい雰囲気になっている。

## 4. 本時の目標

- ・二宮尊徳～尊親のおいたちを知り、「報徳のおしえ」の時代背景を知る。
- ・「報徳のおしえ」の考えを受け継いだ、そんなに遠くない先祖が居ることを知るとともに、その考えが現在の世の中にも通じる可能性があることを知る。

## <参 考>

「報徳のおしえ」四綱領



## 5. 本 時 案

時 間	授 業 の 流 れ	予 想 さ れ る 生 徒 の 動 き	備 考
導 入 10 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「報徳のおしえ」四綱領の確認</li> <li>・四綱領の内容確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四綱領、「至誠」「分度」「勤 勞」「推譲」を思い出す。</li> <li>・それぞれの内容を簡単に確認する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードを用意</li> </ul>
展 開 25 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の把握</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「二宮尊親は、祖父尊徳と話をしたのだろうか」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・尊親の生い立ちについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容の理解</li> <li>・資料の読み合わせ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料配付</li> <li>・課題に興味を持たせるためにクイズのような課題とした</li> <li>・難解な言葉の説明</li> </ul>
ま と め 15 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尊徳から尊親の時代背景を再確認する</li> <li>・身近な先祖の存在を知る</li> <li>・厳しい時代である今こそ、「報徳のおしえ」が今を乗り越えるヒントになる可能性のあることを考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話したことのない尊徳のおしえを、自分（尊親）の時代に生かしたことを知る</li> <li>・尊親のおしえを受け継いだ、そんなに遠くない先祖がいることを知る</li> </ul>	

## 6. 授業の成果と生徒の変化（評価）

- ・二宮尊徳～尊親のおいたち・時代背景に興味を持つことができたか。
- ・「報徳のおしえ」の考えを受け継いだ、身近な先祖が居ることを知るとともに、その考えが現在の世の中にも通じる可能性を感じられたか。



# 中学校2学年 道徳 学習指導案

平成19～20年度

十勝管内教育委員会連絡協議会教育実践指定校（地域）研究実践報告書から

## 1. 題材名 報徳のおしえ

### 「わたしの通知票」

## 2. 題材設定の理由及び教材観

第2学年は、昨年、「二宮尊親の生い立ち」や「報徳の四綱領」について学び、理解を深めてきた。その中で、『報徳のおしえ』は、今を生きる私たちの生活にも密接に結びついていること、自分たちの生活を見直す視点としても役立つことを学習した。

今回は「四綱領」の中でも特に「分度」に着目したい。「分度」とは天分の度合いを指す。与えられた天分の中でどう生きるか、すなわち、自然や社会とのかかわりの中で「それぞれの良さ、己を見つめる」生き方であるという解釈がなされている。

今年一年間の生活を振り返ることで、まずは今の自分をしっかりとらえさせたい。そのうえで、3年生に向けてどうしていけばよいか、「分度」というおしえを意識しつつ考えさせたい。

## 3. 生徒の実態

明るく素直であり、行事等では学年・学級としてしっかりやろうという姿勢が見られる。ただし、いわゆる「中だるみ」の時期なのか、普段の学校生活において覇気が感じられない面もある。

豊頃中学校では「CUSTOM運動（当たり前のことを当たり前でできる中学生に）」を推進しているが、「CUSTOM」についても意識の温度差が感じられる

今の自分に目標を見いだせない生徒、何となく日々を過ごしている生徒にとっては、「分度」というおしえはタイムリーであり、ぜひ前向きに考えさせるきっかけとしたい。

## 4. 本時の目標

- ・一年間の自分自身の生活について振り返る。
- ・「報徳のおしえ（分度）」を意識しつつ、来年度の目標を持つ。

## 5. 本時の展開

	授業の流れ	予想される生徒の動き	教師の活動・支援	備考
導入	昨年と比べ、成長したと感じる部分はどこだろうか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自考える。</li> <li>・数名発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的な成長よりも内面の成長を考えさせる。</li> </ul>	3分
展開	プリント① 「わたしの『通知票』」を書いてみよう。			
展開	「わたしの『通知票』」に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価は5段階評価で。</li> <li>・一言コメントについてもなるべく全てに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間巡視をしつつ、コメントを書けない生徒への支援を行う。</li> </ul>	
展開	プリント② 「報徳のおしえ」を思い出す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報徳の「四綱領」について思い出す。</li> <li>・「分度」についてもう一度考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「四綱領」を確認しつつ、今回のテーマは「分度」であることを提示する。</li> </ul>	
展開	プリント② 「3年生になった『わたし』へ」と題し、自分への手紙を書こう。			
展開	「15歳の『わたし』へ」に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生になる自分への励ましの手紙を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に「分度」に注目させ、前向きな目標が持てるよう促す。</li> </ul>	39分
まとめ	本時の学習内容のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞きながら、自分自身について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「分度」にからめて、これから大切にしてもらいたいことは何かを伝える。</li> </ul>	時間があれば手紙の交流 3分

## 6. 本時の評価

- ・一年間の自分自身の生活について振り返ることができたか。
- ・「報徳のおしえ（分度）」を意識しつつ、来年度の目標を持つことができたか。



# わたしの「通知票」

組 番 名前 \_\_\_\_\_

◎もうすぐ2年生も終了です。あなたはこの1年間、どのような生活を送ってきましたか？  
1年間の振り返り、自分自身の「通知票」を書いてみましょう。

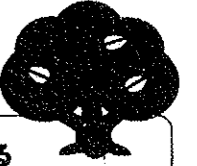
項 目	評 定	一 言 コ メ ント
挨拶や時間のけじめなど、基本的なことを意識して生活することができた。		
部活動や行事など、先輩の自覚を持って取り組むことができた。		
行事や係活動では、自分から積極的に活動することができた。		
自分の仕事は責任を持ってやり遂げることができた。		
自分の力を生かした活動（係、委員会、行事など）をすることができた。		
相手の立場になって考えたり、みんなで協力して作業を行うことができた。		
自分や身のまわり生命を大切にすることができた。		
他の人の手伝いや清掃などに進んで取り組むことができた。		
誰にでも公平な態度で接することができた。		
マナーを守り、公共物を大切にすることができた。		



組 番 名前 \_\_\_\_\_

思い出そう!

## 「報徳」の教え



<至誠> あかるく ひたむきに  
 ・周りの人に、真心で接しよう。  
 ・裏表なく、真面目に生きよう。

<推譲> ゆずる心で 共に生きる  
 ・周りの人に感謝の心を持とう。  
 ・お互いに協力し合い、高め合って生きていこう。

<勤労> いきいき 小さな積みあげを  
 ・自分から進んで行動しよう。  
 ・日々の努力を大切にしよう。

<分度> それぞれの良さ 自己をみつめて  
 ・今ある環境の中で、どう生きていくかを考えよう。  
 ・自分の目標をしっかり持とう。

※今回、最も意識してもらいたいのは ( ) です。

◎「通知票」から、1年間の生活を振り返ることができたでしょうか？  
それでは今までの活動をふまえ、3年生になる自分自身へ励ましの「手紙」を書いてみましょう。

拝 啓 3年生になった「わたし」へ

-----

-----

-----

-----

-----

-----

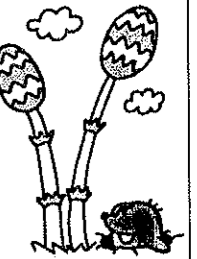
-----

-----

-----

-----

-----



# 中学校3学年 道徳 学習指導案

平成19～20年度

十勝管内教育委員会連絡協議会教育実践指定校（地域）研究実践報告書から

## 1. 題材名「報徳の広がり」 ～豊頃より～

## 2. 題材感

毎日報道される残虐な事件、人の心を感じさせない悲惨な出来事。一昔前ならば映画の中の作り話にしてもちょっと現実離れしすぎじゃない？と思えるような出来事が現実におきている。また、凶悪事件に限らず財政の破綻、リストラ・失業問題、一体この国はどこに向かおうとしているのか？我々の住む北海道も同様、未曾有の危機であると言われて久しい。しかし、北海道における先人の苦労はまだまだ先の見えない厳しいものだったに違いない。環境的にも精神的にも現在では想像もできないほどの……。今から150年ほど前までは。

私たちの生活する豊頃から十勝を開拓した1人が「二宮尊親」である。

明日はどうなるかも知れない環境の中、逞しく北海道の開拓を進めた二宮尊親の「報徳のおしえ」は様々な場面で引用されている。そのおしえが、なぜ開拓・発展の石杖になっているのかを知ることで、自らも先人の考え方や生き方を引き継いでいる1人であることを自覚することができるであろう。そしてその自覚を自らの生き方になぞらえて行ける気持ちを養う。

## 3. 生徒の実態

受験の時期をむかえ一般的には心身共に落ち着かない時期と思われるが、日々穏やかに過ごす雰囲気がある。授業中も同様で、黙々と取り組む傾向にある。全体的には集中しやすい環境を自ずと作ることでできるクラスである。作業を伴う学習においても互いに助け合いよりよい雰囲気を作ることができる。

## 4. 本時の目標

- ①豊頃と「二宮尊親」の関わりを知る。
- ②「報徳のおしえ」が様々な場面で活かされていることを知り、その考えを自らのこれからは活かし利用しようとする雰囲気を作る。

## 5. 準備

二宮尊徳の写真 二宮尊親の写真

資料①(尊徳・尊親の生きた時代とは…)

資料②(四綱領とは…)

資料③(報徳のおしえの概要)

資料④(勤労とは…)

資料⑤(企業と四綱領)

資料⑥(一元融合解説と実践)

## 6. 本時案

時間	授業の流れ	予想される生徒の動き	教師の活動	備考
導入 ⑩	人物確認 2人の関係解説	二宮尊親と二宮尊徳との関係を知る・思い出す。	写真の掲示	2名の写真を用意
	時代の確認 時代背景の確認	豊頃と二宮尊親の関わりを知る・思い出す。	(今から150年ほど前)	※資料①
	四綱領の確認	四綱領「至誠」「分度」「勤労」「推譲」を思い出す。	四綱領の内容確認	資料②の用意
展開 ⑫	報徳のおしえ概要	概要に目を通す	資料の配付	資料③の用意 「概要」
	尊親(尊徳)のおしえは現代の生活に……			
	「日本の3大義務」を確認	3大義務「教育」「納税」「勤労」を思い出す。	3大義務の確認	資料④の用意 「勤労とは」
	「勤労の義務」の成り立ちと四綱領との関わりについて確認。	四綱領の広がりを知る	勤労の義務の成り立ちの確認	
	一般の会社でも「四綱領」が使われているいる場面の確認。	身近？身近ではない？ ところでも根付き活用されている「報徳のおしえ」を知る。		資料⑤の用意 「企業に根付く四綱領」
	「一元融合」とは	自分たちの生活にも深く関わっていることを知る。	四綱領以外にも「一元融合」	資料⑥の用意 「一元融合」
まとめ ⑩	様々な生活場면을提示しそれぞれ確認する。	様々な生活場面での報徳の教えが広がっている意味を知る。	様々な場面で生かされる「報徳のおしえ」を考えさせる。	



## 報徳のおしえの概要

報徳のおしえとは、二宮尊徳が独学で学んだ神道・仏教・儒教などと、農業の実践から編み出した、豊かに生きるための知恵である。神仏儒を究極的には一つにいたる異なる道に過ぎないと位置づけ、神仏儒それぞれの概念を自由に組み合わせて説かれている。そのため報徳のおしえを報徳教と呼ぶことがあっても宗教を意味する物ではない。

報徳のおしえの中心的概念は大極である。この大極にそった実践を行うということが報徳教の根幹をなす。二宮尊徳はこの大極を三才報徳金毛録のなかで円を描くことによってしめしている。

この円を分けることにより、天地・陰陽、などの区別がうまれる。つまり、大極とは、すべてのものが未分化な状態、一種の混沌状態をさす。

大極はつねにそこにあるものであるため、人間が何をしようがつねに大極とともにある。しかしながら、人間は我であるため、つねに大極と何らかの関係をとらなければならない。そこから大極に対して積極的に向かう姿勢である人道と大極に消極的に向かう天道の区別が生まれる。天道にのみそって生きるとき、我である人間を支配するものを人心とよび、人道にそって生きるとき我を支配するものを道心という。人心は我欲にとらわれたところであり、欲するばかりで作ることがない。このような心でいる限り人間は豊かになることができない。道心にそった生き方をして始めて人間は人心への囚われから解放され、真の豊かさを実現できるのである。

ここで重要なのは、童心にそった生き方というのが何処までもプラグマチックに説かれているところである。童心は、それが善だからなどの道徳的な理由で選択されるべきものなどではない。

報徳教は単に、人心に従えば衰え朽ち、童心に従えば栄えるという道理を説くに過ぎないのである。

## 至誠・勤労・分度・推譲

童心にそったこのころの状態を報徳教では誠とよぶ。この誠は儒教でいうところの徳や仁という概念に等しいものである。つまり、大極にたいして積極的に向かっていく暮らしとは、まず誠を尽くしたものでなければならない。我の心を大極と積極的にかかわる状態、つまり誠・徳・仁の状態に置くことを至誠と呼び、至誠がまず実践の第一をなす。

この至誠の状態で日常生活のすべての選択を行って行くことを勤労とよぶ。至誠が心の状態をさすのに対し、勤労はそれが行動になって現れた状態をさすのである。そのため、勤労とは働くことを含むが単に働くことをさすのではない。

勤労することで日常のすべての行動が誠の状態から行われるため、当然それは消費活動にも現れる。これを分度という。つまり、分度とはけちをすることではなく、至誠から勤労した結果に自然と使わざるをえないもののみを使うということの意味する。

そして、最後に分度して残った剰余を他に譲ることを推譲とよぶ。分度と同様に、推譲は単なる贈与なのではなくて、至誠・勤労・分度、の結果残ったものを譲ってはじめて推譲になるのである。

参考文献：インターネット「フリー百科事典・ウィキペディア及びセンサー」より抜粋

## 関係資料

### 資料①

尊徳と尊親の生きた時代 Q & A ～ p 1 7 ・ 1 8 ・ 1 9 ・ p 4 1

### 資料②

四綱領について ※ 1 掲示資料 ※ 2 用紙資料

### 資料③

報徳のおしえ概要 ※ ネットより

### 資料④

勤労とは ※ 用紙資料

### 資料⑤

企業に根付く四綱領 株式会社：富士通 株式会社：光電製作所  
※ 報徳学園 2 代目校長：尊親

### 資料⑥

一元融合・・・この世で相対するものはすべてが互いに働き合い一体となっている。だから決して切り離して考えるのではなく、両方をあわせて一つの円の中に入れてみる。～「一元観」  
報徳のおしえ Q & A p 1 1 ・ p 2 7 ・ p 3 8 より

※ 「円」書き込み資料

豊頃町小・中学校連携教育推進会議「報徳のおしえ」指導部会

# 授 業 実 践 交 流

日時：平成26年11月20日（木）

場所：豊頃小学校 5年教室

ミーティングルーム

## ○日 程

13:30～14:15	授業公開（2年教室） 授業者：山岸 和子
14:35～15:00	研究協議（ミーティングルーム） 司会者：大垣 英司 記録者：川口 珠美

## ○参加者

・豊頃小学校	家田 輝 井村 充 太田 直也 高橋満紀子 松本 由記	阿部 英一 天野ともみ 遠藤 和彦 青柳 雅哉 酒田 尚美	山岸 和子 川上 浩樹 佐藤 未来 工藤 竜馬 島 訓子
・豊頃中学校	石丸掲一朗 中村 郁子 (授業のみ)	川口 珠美 工藤 由佳 植松 恵 (研究協議のみ)	紺野まゆみ 辻 智香 高澤 一弘 阿部 貴之
・大津小学校	織茂竜二郎	西部真紀子	
・教育委員会	菅原教育長	上野教育推進員	



# 「報徳のおしえ」授業実践 学習指導案

日時 平成 26 年 11 月 20 日 5 校時  
 児童 豊頃小学校 2 年生 23 名

## 1. 単元名 「報徳のおしえ」かるた をつくる

### 2. 単元について

#### (1) 単元について

二宮尊徳が説き、広めた報徳思想を受け継ぎ、豊頃の開拓を進めた二宮尊親について、また「報徳のおしえ」そのものの内容について、小学生の発達段階に応じてどのように系統立てて指導していくのか、現状は模索している段階である。本児童にとっても「そんしんさん」の名前や「ほうとくのおしえ」という言葉は聞いたことがあるけれど、具体的な内容については「わからない」と答える子が圧倒的に多い。

そこで、具体的にその内容を知り、現在の自分たちの生活とどのように関わっているのかを、身近な遊びを通して考える機会として「かるた作り」に取り組んでみたい。なお、この授業実践では様々なアプローチの仕方を試みるうえで、道徳だけでなく、生活科や国語科との関連を図り、二宮尊親や報徳のおしえについて「知る」、「考える」、「生かす」の観点をもって学習を進めていきたいと思う。

#### (2) 児童の実態

子どもたちに「二宮」と問うと、真っ先に「金治郎!」と返ってくるほど、二宮金次郎の銅像の認知度は高い。しかしながら、何をした人か、この豊頃町とどういう関係があるのかまでは、当然のことながらわからない。小学 2 年生の子どもたちにとって、二宮金次郎さんは「銅像の人」であり、尊親さんは「豊頃を開拓したひげの人」という程度の認識である。「ほうとくのおしえ」、「子どもほうとくくん」という言葉は、毎月の生活目標で聞いてはいるものの、自分(たち)の生活とどう関わっているのかとなると、教師の側から教えられることが多く、自分自身でその意味や具体的な行動を考えた経験は少ない。

この授業実践を通して、「報徳のおしえ」が今の自分(たち)の生活とどう結びついているのか、「子ども報徳訓」の内容と身の回りの生活を比べながら、自分たちの言葉で具体的に表現できることを目指したい。

### 3. 単元の目標

◎身の回りで大切なことを「報徳かるた」にして、みんなに伝えよう。

(関心) 自分の身の回りの出来事と「子ども報徳訓」を関連させながら考えることができる。

(話す) かるたにしたい言葉や文をみんなの前で話すことができる。

(聞く) 友だちの発表を最後まで聞くことができる。

(書く) 身の回りで大切なことを文にして、かるた作りをすることができる。

### 4. 学習計画

時間	学習内容	関心	話・聞	書く
1 時間目	「報徳のおしえ」を広めた二宮尊徳について知る。(紙芝居)・・・生活科「ハートをつなごう」	◎	○	
2 時間目	二宮尊親について知る。(尊親さんの村づくり)・・・生活科「ハートをつなごう」	○	◎	
3 時間目	「子ども報徳訓」について知る。 ・・・道徳「報徳のおしえ」	○	◎	
4～6 時間目 本時(4/6)	報徳のおしえをくわしく考える。 (かるた作り)・・・国語科「語彙を増やす」「わかりやすく書く」	○	○	◎

5. 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・子ども報徳訓の内容と関連する出来事を身の回りから見つけて、かるたの読み札となる文を作ることができる。

(2) 本時の展開

	子どもの活動	教師の支援	評価
つかむ	<p>1. 前時までの学習の内容を振り返る。(四綱領とキーワード)</p> <p>2. 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>身の回りで大切にしたいことを、「報徳かるた」にしよう。</b></p> </div>	<p>・前時で使用した色別の掲示物を使って既習事項を振り返る。</p>	
考える	<p>3. 身の回りの出来事の中から、子ども報徳訓と関連のあることを選び、文を作る。(キーワード)</p> <p>【至誠】…元気, 明るさ, 素直さ</p> <p>【勤労】…お手伝い, 学習, 一生懸命, 最後までやりぬく</p> <p>【分度】…約束を守る, がまんする</p> <p>【推譲】…優しさ, 思いやり, 感謝する, 助け合う</p> <p>(場面) 家庭で 学校で 町の中で</p> <p>(対象) 人～自分 友だち 家族 町の人 物～自分の持ち物 公共の物 動植物</p> <p>*一人で文を作った後, グループの中で交流し合う。</p>	<p>☆身の回りで大切だなあと思っていることはどんなことかな?</p> <p>☆そのためには, どんなことをしたら良いかな?</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>《手立て①》四綱領の意味を具体的な場面に当てはめて考えさせる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>《手立て②》小集団の中で, 友だちの良さを感じるとともに, 発表に対して自信を持たせたい。</p> </div>	<p>(関) 自分の身の回りの出来事と「子ども報徳訓」を関連させながら考えることができる。</p> <p>(書) 身の回りで大切なことを文にして, かるた作りをすることができる。</p>
深める	<p>4. 作った文を全体で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなところが良いか。</li> <li>・自分の経験にもあてはまるか。</li> </ul> <p>5. 作品の一つを例にとり, より良い表現の仕方を全体で練り合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よびかけの形にしてはどうか。</li> <li>・言葉の順序を入れ替えてはどうか。</li> <li>・ほかの言葉におきかえてはどうか。</li> </ul>	<p>・子どもたちの発表を種類ごとに分けて板書する。</p> <p>・どれに当てはまるかがわからない場合は, 全体で考える。</p> <p>・取り上げる作品は, テレビ画面に映す。</p>	<p>(話) かるたにしたい言葉や文をみんなの前で話すことができる。</p> <p>(聞) 友だちの発表を最後まで聞くことができる。</p>
まとめる	<p>6. 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>自分たちの言葉で考えると、「報徳のおしえ」が身近にあることがわかる。</b></p> </div> <p>7. 次時の学習内容を知る。</p>	<p>・次時の予告をする。</p>	

6. 板書計画

